

2025年

# 風光

人権のたより 通算第75号 1月 8日発行

三重県立津東高等学校

新しい年が始まりました。「松の内」は7日まで？15日まで？関東と関西の間の三重県では、いろいろな意見がありそうです。

○ 令和七年 乙巳 ～今年はどうなる年～

今年の干支は乙巳（きのとみ）。干支は十干（じっかん）と十二支（じゅうにし）を組み合わせたもので10と12の最小公倍数、60年で一巡します。十干は古代中国で考えられた甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸に五行における元素、木・火・土・金・水に陰陽を組み合わせたものを当てはめたもの。（干支を「えと」と読むのは十干の陽を兄、陰を弟と表記して「えと」としたのが由来です。）十二支はもともと順序や方位を示す符号だったものに後にわかりやすく動物を当てはめたものです。今年、乙巳の乙（きのと）は十干の2番目で「木の陰（木の弟）」、巳（み）は十二支の6番目で方位としては南南東の少し東（時計の12時を北として5時の方向）、当てはめられた動物はよく知られている通り「ヘビ」になります。そして、今年もこの十干と十二支の「乙」と「巳」、それぞれの意味を組み合わせ、多くの人がいろいろな解釈を行っています。その中にはポジティブなものもあれば、それはちょっと…と思うものまで様々なものがあります。令和七年、今年もいろいろな事があるでしょう。たとえ同じ事があっても、それをどのように解釈するかは人によって違います。その違いがあることを認め合うことが大切です。



○ 世界点字デー（1月4日） ～ルイ・ブライユと「6点式点字」～

1809年1月4日、フランスのパリの北西 ①④ ●● ●- - - ●- ●-  
約40kmのクヴレ村に生まれたルイ・ブラ ②⑤ -● ●- -● - - ●●  
イユ。5歳のころに全盲となった彼は当時の ③⑥ ●- ●● - - -● -●  
「障がい者には教育は不要」という風潮の 6点式点字 「ツヒガシ」

中、家族や村にやってきた神父の助けによって他の子とともに村の学校に通い、優秀な成績を取めました。その優秀さと「自分で読み書きがしたい」という彼の熱意によって、多くの人が働きかけ、10歳でパリの王立盲学校へ奨学生として入学することになります。

ここで彼が出会ったのが光のない夜間でも文章を伝える事ができる軍用の「12点式暗号」です。彼はこれをもとにして日常生活でも使いやすい、「6点式点字」を発明しました。盲学校を卒業した彼はそのまま盲学校の教員として勤め「6点式点字」をより使いやすいように改良していきます。そして1837年、ついに彼は点字を完成させます。

彼が発明した「6点式点字」はアルファベットだけではなく、数字、アクセント記号、さらに音楽を表現することが可能です。これによって目の見えない人々は文芸や音楽によって自分を表現する方法を手に入れました。残念ながら彼は1852年1月6日、43歳という若さで肺結核でなくなりましたが、そのわずか2年後、フランスで正式に彼が発明、改良した6点式点字が採用されました。彼の名前は現在、点字「braille」として残っています。そして彼の誕生日、1月4日は2018年12月の国連総会において「世界点字デー」として承認されました。